

九州運輸局メールマガジン
平成22年3月25日 第75号(発行日:毎週木曜日)
~九州の明日を拓く運輸と観光~
九州運輸局HPアドレス <http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/>

九州運輸局メールマガジンをご覧いただきありがとうございます。

来週は、編集の都合により3月31日(水)に配信いたしますのでご了承ください。

目次

- 1.九州運輸局ホームページアップ情報(3月18日~3月24日掲載分)
 - トピックス
 - プレス発表
 - 入札・契約情報
 - お知らせ
 - 九州のうんゆ
 - バス・タクシー・トラック
 - 海事振興部貨物課
- 2.現場リポート
 - 『バリアフリーアドバイザー-連絡会議』を開催
- 3.九州運輸局セミナー
 - 船員の雇用情勢等について
- 4.リレーコラム【長崎運輸支局次長 清田 祐司】
- 5.編集長だより

【九州運輸局ホームページアップ情報】(3月18日~3月24日掲載分)

トピックス

- ・平成22年度物流連携効率化推進事業の公募の開始について
<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/kannkyou/file03c.htm>
- ・平成22年度先端のエコドライブ管理システム(EMS)公募について
<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/topics/file21/file220324.pdf>

プレス発表

《総合》

- ・「九州運輸局平成22年度重点施策」を取りまとめました
~九州の地域活性化を支えます~(3月23日発表)
http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press100323_1.pdf
- ・地方の元気再生事業報告会を開催します(3月23日発表)
http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press100323_2.pdf

《観光》

- ・中国山東省の富裕層向け医療観光誘致のための招請事業を実施します!(3月19日発表)
http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press100319_1.pdf
- ・中国江蘇省からの中高年団体誘致のためのキーパーソン招請事業を実施します!(3月19日発表)
- ・「訪日外国人受入接遇研修会」を雲仙市で開催します!(3月19日発表)
http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press100319_3.pdf
- ・「VJ C魅力ある日本のおみやげコンテスト2010」で
「古伊万里文様絵変りワインカップ(小)」がグランプリ

を受賞しました！！（3月23日発表）

http://wwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press100323_3.pdf

・中国山西省太原市の教育関係者招請を実施します！（3月23日発表）

http://wwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press100323_4.pdf

・宿泊旅行統計調査 =九州版 =

～平成21年分 平成21年第4四半期（10～12月）～（3月23日発表）

http://wwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press100323_5.pdf

《鉄道》

・九州新幹線 博多～新八代間の開業に向けて 電力設備の完成検査を始めます（3月23日発表）

http://wwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press100323_6.pdf

《自動車》

・第3回大分市・別府市タクシー特定地域協議会の合同開催について（3月18日発表）

<http://wwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press100318.pdf>

入札・契約情報

・企画競争実施予定情報

http://wwtb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/pdf/koukyou/kikakukyousou_100323.pdf

お知らせ

・特殊車両指導取締りの強化について

<http://www.qsr.mlit.go.jp/fukkoku/tokusya/tokusya.html>

九州の運輸

・2009年12月号

http://wwtb.mlit.go.jp/kyushu/kyushuunyu/pdf/21_12.pdf

バス・タクシー・トラック

・タクシーの申請公示状況

http://wwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/ji_bu_ka/taxi/k_220323.pdf

海事振興部貨物課

・内航海運業法の申請書式について

http://wwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/kaiji/file02_02.htm

【現場レポート】

『バリアフリーアドバイザー - 連絡会議』を開催

九州運輸局では、3月17日（水）、「バリアフリーアドバイザー連絡会議」を開催しました。この会議は、バリアフリーアドバイザーの方々に対し、九州運輸局のバリアフリー施策について報告するとともに、今後の取り組みに対する意見を伺うため、平成18年度より開催しており、今回が4回目となります。

当日は、アドバイザー6名に加え、今年度のバリアフリー教室開催にあたりご協力いただいた国の機関、社会福祉協議会、交通事業者等から13名に出席いただきました。

会議ではまず、九州運輸局のバリアフリー施策として、主に今年度実施したバリアフリー教室について報告を行いました。また、交通事業者から現在バリアフリーに関して力を入れている取組み等について報告をいただきました。

会議の後半では、国際医療福祉大学の齊場教授の司会進行によりアドバイザーによるディスカッションが行われました。ディスカッションでは、「高齢者・障害者におけるモビリティ不足の問題。『買物難民』と呼ばれる人々が増えている。」「道路環境の制約、運転手の操作業務の違い、乗降に要する時間の差などが判れば、事業者も経営視点でなくユーザーからどのような要求があるのか、機能の改善要求とか真に人に優しい道具に変わるための環境が作られると

思う。」「熊本県では『障がい者への差別をなくす条例』を目指している。」
「障害を持たない人にとっては98%の完成度でも支障はないが、障害当事者にとってはその2%が大きな壁となり、結果的に使えない設備で終わってしまうことを分かっているのか。」「障害当事者によるハード&ソフトのバリアフリーに関するアドバイザーの要請を進める必要性を感じている。」「提供する側が便利と思っているものは本当に便利なのか、バリアフリーのための設備が他の障害になる場合、“気づく”ためにはどうすればいいのか。」など、各アドバイザーの方から意見が出されました。

最後に齊場教授より、「本当に障害者・高齢者のことを意識したマニュアルをどう作ったらよいか。思い込み、思い違いでバリアフリー化を考えないでほしい。無駄なく(損な)こと、中途半端なことはやめようと呼び掛けていきましょう。」とのまとめがありました。

九州は、全国と比較して鉄軌道駅の整備、ノンステップバスの導入など進んでいない面もあります。今回の会議で頂いた貴重なご意見を参考とし、九州が全国を引っ張っていくようなバリアフリー施策を推進していきたいと思えます。

(交通環境部 消費者行政・情報課)

【九州運輸局セミナー】

船員の雇用情勢等について

九州は昔から船員の供給地と言われてきましたが、最近の船員を取り巻く環境をご存じですか？その船員にとって現在は厳しい状況にあります。

日本の船員数は、昭和49年の27.7万人(外航船員:5.7万人、内航船員:7.1万人、漁業船員:12.9万人、その他2万人)をピークに国際競争の激化や船舶の大型化、国際的な漁業規制等により年々減少し、平成20年では約7万3千人(外航船員:0.3万人、内航船員:3万人、漁業船員:2.5万人、その他1.5万人)と、ピーク時の26.4%まで激減しています。

また、船員の年齢構成では45才以上の中高齢者が平成7年では49.1%だったのが、平成20年では54%となっており、高齢化の傾向が続いています。特に内航海運では、45才以上の割合が58%(H20.10)と高齢化が顕著で、将来的に船員不足が懸念されており、若年船員の確保が喫緊の課題で、この課題を打開するために、当課では下記の様な施策に取り組んでいます。

・海のチャレンジフェア

船員志望者の裾野拡大を目的に、求人者と求職者を一堂に集め就職面接、企業説明会の開催及び船員未経験者に対する船員職業セミナーの実施

・海事地域人材確保連携事業

特定の海事産業集積地域において、地域における様々な関係者が連携して海事関係の人材確保・育成に取り組む。九州は大分県佐伯地区と熊本県宇城地区に協議会が設立され、国から認定されている。

・船員計画雇用促進等事業

安定的な国内海上輸送の確保を図ることを目的として、船員の計画的な確保・育成を推進する。

これらの他にも、小、中学生等対象とした次世代人材育成推進事業にも取り組んでいます。

さらに、船員の雇用情勢ですが、一昨年からの世界的不況や高速道路の夜間割引等の影響で、海運業界も減船や休業等を余儀なくされています。このため九

州管内における求人倍率は、昨年1月の0.6倍をピークに最近は0.2倍と
なっています。

なお、21年度補正予算で船員に係る緊急雇用対策として、海運事業等雇用調
整助成金制度（予算額13億）や緊急雇用促進助成金制度（予算額2.5億）
が創設され、九州では雇用調整金が34業者5,5百万円の利用が、雇用促進
は14者42人の申請がありました但最终的には10人の採用となりました。

（海事振興部船員労政課）

【リレーコラム】

～龍馬が歩いた長崎街道をゆく～

ある日宿舎の周りを散歩していたら「長崎街道」との表示が目止まった。長
崎は初めての勤務であり、それまで全然気にかけず歩いていた道が、坂本龍馬・
勝海舟等日本の歴史を動かした人々の歩いた街道と知り、龍馬が初めて長崎に
来たときに通った長崎街道の矢上神社（矢上宿跡）から西の箱根と言われた日
見峠を越えて長崎奉行所立山役所跡までのおよそ10kmを歩いてみた。

1863年、幕末の動乱期に攘夷の政策をとる長州藩は下関海峡を通航する仏・
米・蘭の船に砲撃し戦闘となり、翌年、長州に報復攻撃を構えた仏・米・蘭・
英4か国の艦隊を慰留せよとの幕命を受け、海舟と門下生龍馬一行は長崎に向
かった。2月14日に神戸を発ち、15日に大分県佐賀関に上陸し、肥後（豊
後）街道（～熊本）、島原湾（船）、島原街道（島原～矢上）、長崎街道（矢上～
長崎）と九州を横断して2月23日に長崎に着いている。

2月の春の陽気に誘われて、宿舎近くの矢上（矢上宿跡）から出発した。

矢上宿は、長崎街道25宿中の長崎から2番目にある大きな宿場であり、島原
街道と交わって当時は、旅籠、造り酒屋、鍛冶屋が立ち並び従来者、馬、駕籠
人足等で大変賑わっていたそうです。矢上宿跡を過ぎると佐嘉藩が関所をおい
ていた矢上番所跡をとおり、当時は東望浜と呼ばれ浜辺であった公務員宿舎の
裏手を進む。ここから道が狭くなり急な坂道をやっと登ると長崎奉行所の領地
（天領）日見村と佐嘉藩の矢上村の境界を示す領地境界石がある高台にでる。

後は下りに入り、熊本細川家の家臣が町民と試合をして負け、武士の面目を保
つため腹を切ったことから名付けられた腹切り坂をとおり、長崎街道最後の宿
場日見宿跡（当時は小さい宿場）をとおり、歯痛観音を過ぎたあたりから、道
は急坂の七曲がりの登りになる。

さらに旧日見トンネルの左の道を登ると町名にもなっている芒塚（すすきづか）
の句碑「君が手もまじるなるべし花薄（すすき）」があり、日見峠で松尾芭蕉
の弟子向井去来（長崎出身）が友と別れるときに詠んだ句と言われている。

現在は、一休ができるように整備がされているが、当時は険しいところだった
と推測される。

また、険しい坂道を登り、長崎街道と明治新道（明治に馬車等を通すために整
備された日本初の有料道路）が重なる道にでて少し登ると、日見峠と標柱があ
り、いよいよ峠越えに差しかかる。

さすがに西の箱根と言われる長崎街道きつての難所であり、相当の急坂である。
途中で日見峠の関所跡（1863年設置）があり、少し登ると峠の頂上地点（峠の
頂上は、明治新道を整備した際に開削して掘り下げている）にでる。ここから
は稲佐山がよく見える。

峠あたりにはこの季節白梅が咲きほころび、当時は長崎に着いたとの安堵感と白梅で疲れを癒したのではと思いを馳せる。

峠を過ぎると下りが続き、日見峠新茶屋跡、かつては蛍が乱舞していたことから名付けられた蛍茶屋跡をとおり、橋名がめずらしいローマ字が刻んであり1653年に築造された一ノ瀬橋をとおり、中川八幡神社の前の食違（街道が直角に曲がっている）と呼ばれる道を通り、長崎街道の長崎側の起点に立てられた石柱（長崎街道ここに始まる）を見ながら諏訪神社の拝殿を横に見ながら進み、およそ4時間で長崎奉行所立山役所跡にたどり着いた。

長崎奉行所に着く頃には、足が棒のようになり、日頃の運動不足、体力の衰えを痛感したところある。

日本の歴史を動かした人々は、街道というすばらしい遺産を残してくれた。街道を歩いた人々が、この道を現在へ繋いでくれたのではないかと思う。みなさんも歴史が育んできた道に思い巡らし、ゆっくり散策されてはいかがですか。

今回は、龍馬が初めて長崎に来た長崎街道をたどったが、機会があれば小倉から長崎までの長崎街道をゆっくりとたどってみたい。

追伸

NHK大河ドラマ「龍馬伝」の影響で、長崎は龍馬ブームです。龍馬ゆかりの亀山社中、丸山花月、福濟寺などの史跡、また龍馬に一番似ていると言われている風頭の銅像、昨年オープンした まちなか龍馬館などの観光施設も整備されており、ぜひ長崎に一度お越しください。

（長崎運輸支局次長 清田 祐司）

【編集長だより】

来年春に全線開通を予定している九州新幹線のレールが今年3月直結されました。全線開通後は博多と鹿児島間が約1時間20分で行けるようになります。また、大阪と鹿児島間も約4時間で行けるようになるそうです。

全線開通を心待ちにされている鹿児島は、昔から「黒の文化圏」といわれています。「黒の食べ物」としては皆さんもよくご存知の黒酢、黒豚、黒牛、黒砂糖、そして焼酎の黒麹仕込みなどたくさんあります。食べ物以外にも黒千代香（くろじょか）で有名な黒薩摩焼き、黒薩摩切子、黒かすり等……。中でも「黒の食べ物」に代表される黒酢は大きな壺の中で1年以上かけて発酵・熟成されます。そんな壺が桜島を背景として数千も並ぶ様は通称「壺畑」と呼ばれ圧巻です。また、黒酢をはじめとするこれらの「黒の食材」はただ美味しいだけでなく、体にもいいといわれています。その他にも九州新幹線と同時に誕生した鹿児島中央駅と吉松町を結ぶ観光特急「はやとの風号」の車体は、鹿児島の「黒の文化」にちなんで漆黒に塗られています。今、鹿児島では江戸時代から続く「黒の文化」を再び見直そうという動きがあるそうです。

今回のメールマガジンは3月31日（水）の配信予定です。

皆様のお知りになりたい情報・ご意見・ご要望等をお聞かせください。編集部ではできる限りご要望にお応えしたいと思います。下記のメール又はファックスからお気軽にお寄せください。

九州運輸局メールマガジン編集長（九州運輸局総務部広報対策官）
森 益隆（もり ますたか）

mail : mm-kyushu@gst.mlit.go.jp
Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192

バックナンバーは、次の URL に掲載しています。
http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/top.html